

意見を聴く会における委員からの主な意見

経営の安定

- 配合飼料価格や資材費が上昇し、生産コストが上昇。農家戸数が年々減少していることも踏まえ、経営の実態をしっかりと把握すべき。
- 飼料の安定供給と飼料価格の低減が課題。
- 慢性疾病が経営に与える影響は大きい。
- 今後、生産性の向上は必須。そのためには、施設整備などのハード面に加え、経営分析(ベンチマーキング)などのソフト面にも取り組むことが不可欠。
- 生産基盤を維持するため、大規模だけではなく中小農家も支援していく必要。また、経営安定対策の適切な実施が必要。

国内由来飼料

- 食品ロス削減の取り組みにより、食品廃棄物は減少しているが、サツマイモなどエコフィードに活用できる未利用資源はまだある。
- 食品廃棄物は飼料利用が最優先とされていることが知られていない。エコフィード利用によるCO₂削減効果などを調べ、食品製造事業者に周知することも重要。
- 飼料用米の価格・供給量は食用米の作付状況に左右されている。

飼養衛生管理の高度化

- 養豚の悪臭は、農場ごとに原因が様々なため、苦情に発展しやすい。状況や要因に合った対策を講じることが重要。
- 家畜のふん尿は食品廃棄物と混合することによりバイオガス発電に使用されるなど再生可能エネルギー源として有益。
- 堆肥の利用を進めるためには、ペレット化による利便性向上や化学肥料との混合による成分の安定化等により、耕種農家が使いやすいものを供給することが重要。
- 飼養衛生管理基準の遵守や獣医師によるアドバイスを取り入れた衛生管理に取り組むことが重要。

意見を聴く会における委員からの主な意見

疾病発生 予防

- 豚熱については、ワクチン接種のほか、病気を入れない農場バイオセキュリティが重要であり、ソフト・ハード両面からの防疫の強化が必要。
- 豚熱については、引き続き野生イノシシへの対策も必要。
- 引き続き、アフリカ豚熱等への水際対策の徹底が必要。
- 迅速で適切な診断・治療のため、遠隔診療を推進する必要。

安全安心な 豚肉の生産 ・消費

- 国産豚肉の消費拡大が重要。チェックオフについても生産者の理解を進める必要。
- アニマルウェルフェアに対応した飼養管理は通常よりコストが掛かるが、価格への転嫁が難しい。
- 消費者の欲求は、高くても良質なものを、安価なものに二極化している。日常用に安価な豚肉を求める人もいれば、黒豚など品質のいいものを求める層もいる。
- ハム・ソーセージなどの加工品においては、原料のほとんどが輸入豚肉。一方、贈答品では、国産豚肉を使用したものにも需要がある。

その他

- と畜場は公共性の高い施設だが、老朽化、労働力不足が課題。また、災害発生に備えたBCPの策定が必要。